



今日のトピック 豪州準備銀行は金利操作を延長せず国債買入れも減額 景気堅調で金融緩和から徐々に脱却へ

ポイント1

政策金利は据え置き 金利操作を延長せず国債買入れも減額

- 豪州準備銀行（RBA）は7月6日の金融政策決定会合で、翌日物金利と3年物国債利回りの目標を0.1%に維持しました。
- 時間経過に伴って短期化している3年国債利回り目標の対象は、2024年4月償還国債のまま変更されませんでした。市場の一部では2024年11月償還国債に延長するとの見方もありました。また、国債買入れプログラムも継続はするものの、現行の週50億豪ドルから9月上旬以降は40億豪ドルに減額すると発表しています。RBAは金融緩和から徐々に脱却しています。

【消費者物価指数と政策金利】



(注) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2021年1-3月期。変動の大きい項目を除外したトリム平均値。
政策金利は2013年1月～2021年7月。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2

インフレ率の加速は緩やか 2024年まで金利据え置き継続へ

- 声明文では、「豪州の景気は以前の予想よりも強く、回復は今後も続く」と評価しています。また、「雇用者数はパンデミック前を上回った」と、労働市場の強さにも言及しています。
- 一方、「実際のインフレ率が2～3%の目標範囲内に持続的に収まるまで翌日物金利を引き上げない」、「2024年までにこうした状況になるとは予想していない」と、政策金利据え置きを続ける方針を改めて示しています。

【豪ドル円レートと豪日金利差】



(注) データは2019年1月1日～2021年7月6日。
豪日金利差は3年国債利回りの差。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開

金融緩和からの脱却姿勢が豪ドルの支えに

- RBAは貸出プログラムを予定通り6月末で終了させましたが、本日の一連の決定はそれに続くものとなります。堅調な景気を受けて金融緩和からの慎重な脱却を進めています。
- 豪ドルはこのところ対米ドルで一進一退の展開が続いています。しかし、RBAによる金融緩和のさらなる縮小観測が生じれば、豪ドルが上昇する局面も想定されます。

ここも チェック!

2021年6月29日 **テーパリングと株価の動きを検証**
2021年6月10日 **アジア・オセアニアのリート市場は横ばい**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。